

令和7年度 こども園関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターしんばら

こども園関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 8年 2月 5日 13:15 ~ 14:30

【こども園関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

「しあわせいろのたねまこう」
豊かな生活体験や遊びを通して、健康な心と身体づくりをします。
たくさんの可能性を秘めた種を蒔き、あそびや活動を通して、成長していくために大切な土台を、家庭と協力して作ります。

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園評価の具体的な目標や計画】

「これ なあに」
前年度「しんばらっていいな」のテーマのもと、当園で大切にしてきた活動やつながりを、ひとつひとつ丁寧に見直し、教育保育を楽しんできました。その中で、子ども達が興味関心を持ちながら、一つのことに夢中になり、遊びこむ姿が印象的でした。疑問に思ったことや発見したことを、子ども、職員、そして保護者の方も、一緒に考えたり調べたりしながら、経験や知識を広げられるようにしたいと考えています。
職員の具体的な取り組みとして、子どものあそびが豊かになるよう、職員が主体性を持って、あそびに対する知識や技術を習得し、実践します。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none">・グランドデザインについてオリエンテーションでの説明と情報公開コーナーに掲示してあり目につくところがあるので意識することができている。・普段の活動の中でみつけたものを「これなあに？」と調べたり聞いてみたりする姿があり、重点目標が園児まで浸透していることを感じる。また未満児でも様々なことに興味関心がもてるよう声の掛け方や関わり方を工夫している姿がある。・重点目標について各々の目標設定があったので意識しやすかった。	4	<ul style="list-style-type: none">・グランドデザインが分かりやすい位置に掲示されていてよい。・グランドデザインに沿った園運営がされていることが参観等を通して理解できた。・子どもが、職員が図鑑等で一緒に昆虫のことを調べてくれると話していた。重点目標への取り組みが子どもを通して感じることができた。・子どもの「これなあに」を職員が受け止めており、ありのままの姿で活動に取り組んでいる様子があった。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	<ul style="list-style-type: none">・各クラスのすり合わせ会議の中で計画が共有でき、立案を行うことができています。・行事や環境整備等の業務にも担当が決められていて計画・実践を行い、反省を次年度に繋げている。・季節や子どもの興味関心に合わせて玩具や絵本・図鑑の入れ替えを行うことができた。・集会での発表等、発達に応じて子ども達の言葉を引き出せるような働きかけをしていきたい。・年間を見通した遊びの充実や季節ならではの遊びについてまだまだ深められる部分があるため計画性をもって実践していきたい。	4	<ul style="list-style-type: none">・重点目標への取り組みについて評価、反省を半年に一回行う中で計画が立案されている取り組みがよいと感じた。・常に子どもが活動する中で話し合いや会議の時間を作り出していることが分かり、その中で新たな活動の準備や玄関先の子どもが楽しめる掲示物（今は魚のオブジェ）の環境等を整えている。・計画性や本評価のガイドラインの項目からも小学校への接続に関するつながりを感じる。季節毎の行事も立案されている。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたらしさが認められる 2. 安心してすごせる生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの個性や性格などが担任だけでなく職員間で共有されておりみんなで育ちを見守っている。 ・家庭の生活を共有することで子ども一人ひとりにあった支援や関わりを行っている。 ・大きい子が小さい子のお世話をするなど異年齢の関わりがみられる。 ・散歩等を通して地域の方と日常的に挨拶を交わし、触れ合ったり関わったりすることができた。 ・畑や園庭で虫を探したり草花を摘んだり、思う存分探求することができている。 ・主体的に遊べるヒントやアイデアの引き出しを学んでいきたい。 ・自主性・主体性を大切にしていきたいがどこまで見守るべきか等葛藤する場面もある。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・参観を通して活動の中から子どもが好きな活動を選択している様子が伺えた。自ら選択することの良さを感じた。 ・発表会を行う中で子どもの主体性を尊重しながら子どもに委ねている様子があった。行きたい散歩等の活動も、日々その日の気分や気持ちが変わる中でその気持ちに寄り添っていただけの様子があるので安心して預けることができています。 ・アンケートの記述からも満足度の高さが伺えた。
<p>Ⅳ. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. 教育・保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 教育・保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加やお散歩デーを通して、子ども達の姿を保護者の方と共有し、悩み相談を気軽にできる機会を作っている。 ・地域の方に青空絵本や伝承あそびを一緒に行っていたりしている。 ・園で子どもの姿を伝えながら、そこから家庭での様子や心掛けるように心掛けている。保護者の方にも色々な方があるので、一人ひとりの生活環境や状況にあわせて関わり方を意識している。 ・ブログや掲示、おたより等で園の様子の発信ができています。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの怪我一つでも丁寧な報告があり、安心感を感じている。 ・ブログを拝見するのが非常に楽しみ。ブログを見ることで園の活動が伝わってくる ・おまかせシステムの子どもの健康連絡について入力漏れがあった時等例えば登園打刻の際に表示されるような機能があると良いかと思う。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 困った時に頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ひろば、出張ひろばを通して地域の方がよく来園してくれている。地域の方が相談しやすい場所となっている。 ・小学生の子も遊びに来ることができる「長期休暇支援」を行い、居心地よく楽しんでいる声がある。 ・一時預かり事業の拠点としての情報が地域に伝わっており、利用者も多く地域の方のニーズに添っている。 ・支援ひろばを利用している方と、園児の交流が自然に行われており、園の活動が地域の方にも見えやすい環境となっている。 ・ブログや情報誌を通じて、誰でも園の情報を得られるようになっていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ひろばでの「長期休暇支援」がまだ知られていないところもあるが、新しい取り組みかつニーズが高いと思うので大変よいと感じた。小学校でも長期休暇時の居場所づくりは課題となっているので引き続き続けて行ってほしい。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性がいかされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て部門としての春季研修や実技研修、その他行政主催の研修やキャリアアップ研修、園内研修等を通じ、知識や技術を高められる機会が多くある。 ・日々の環境整備の中で清潔な環境を保ち、季節を感じられる工夫を意識して行っている。 ・職員一人ひとりの思いを否定せず受け入れられる体制があり、一人ひとりの意見を大切にできる雰囲気がある。 ・得意な事や個性を活かすことができています。 ・挨拶やコミュニケーションをとり、連携しやすい関係づくりができています。 ・園内の安全管理等に関するマニュアルや約束を整備することで共通認識できるようにしている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前から担任の職員が事務所で事務仕事をしている様子を見かけることが増えた。そのような時間の確保を引き続き大切にしてほしい。 ・子どもの話から、色々な職員が得意なことが違うことが分かる。 ・保育教諭は子どもに体現しなければならぬ立場であるが業務の負担感の軽減も大切なところだと思うので適宜見直ししながら実践を行ってほしい。